

介護老人保健施設しおん

症 例 概 要 ご利用者：40代 男性 介護3
利用期間：令和4年7月～現在(しおん通所リハビリ)
傷病名：左被殻出血・脳室内出血・未破裂動脈瘤
経過：令和2年10月職場で発症。救急搬送され左被殻出血・脳室出血の診断で開頭血腫除去術をし入院。後遺症に重度右片麻痺、高次脳機能障害、重度失語症。
令和3年4月に退院し、しおんに入所。令和4年7月にしおん退所した。

週3回のしおん通所リハビリ利用開始となる。

内 容

しおん入所当初から多少昼夜逆転していたが、自宅に帰ってからはさらにひどくなり、通所リハビリ利用中は午前、午後ともに傾眠が多い状態であった。

利用当初は意思表示や笑顔もなく、自身のADL向上への意欲が見られず、車椅子移動のみであった。病気の後遺症もあり他のご利用者とのコミュニケーション、自己表現が難しいことで職員とも話をすることは少なかった。

通所リハビリに通うことで生活リズムが安定し、徐々にリハビリへ意欲的に取り組む様子が見られ、長距離を「歩いて」移動できるようになった。

ご家族やリハビリ職員、介護職員が情報共有し、色々な話題をふり傾聴を続ける事で少しずつ意思表示が出来るようになり、笑顔も見られるようになった。

日々コミュニケーションを取る中で、手先が器用な事に職員が気付き、創作活動クラブへの参加を促すと、意欲的な様子が見られました。片麻痺の為、片手でも出来るカゴ作りを提案し、母の日が近かった為、母の日にサプライズで「自分で作ったカゴ」を渡す事にした。

カゴの色が5種類あり、その中からお母さまをイメージし、似合う色と飾りをご本人に選んでもらい、職員もサポートしながら2回に分けて1時間程で完成し、お母さまにプレゼントする事が出来た。次の作品にも積極的に取り組んでいる。

創作活動と長距離移動が出来た事で自信がつき、今後は自分でお店に行き、好きなものを買いたい。という目標を立てました。しおんの近くのコンビニに1週間に1度、歩いて買い物に行けるように支援していく。